

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 はっぴーone信		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 1 月 5 日		～ 令和 7 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 39
○従業者評価実施期間	令和 7 年 1 月 15 日		～ 令和 8 年 1 月 20 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 1 月 31 日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども達の過ごしやすい環境	・壁面を少なくして分かりやすい構造にしている。	・物が散乱しないように整える
2	・支援についての事前説明と経過報告が適宜おこなわれているところ	・会議や来所時の送迎で説明を詳しく行えること。	・子どもの充実、達成感が向上することを目指すプログラム内容にし、その経過をフィードバックし続ける。
3	・計画書やHUG、LINE、TELで相談をしやすい環境があること。	・ご家族の思いを引き出し、寄り添うこと。	・個人面談を定期で設けていきたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流、兄弟支援	・前年度は兄弟を外したイベントを行ったこと	・定期的面談を行い家族ニーズに合う形で交流行事を取り入れる(イベント?勉強会?)
2	・面談回数	・年長さんに絞った面談を組んだ一年だった為	・個人面談でお母さまの困り感を聴取する
3	・子どもの達成感、子どもが通所している意義の理解	・自己選択の回数が少ない	・わくわくする課題提供 ・達成しやすい目標設定、課題練習と課題達成を通してできた喜びを作る。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援事業所 はっぴーone信					公表日	R8年 2月 24日	
						利用児童数	44名	回収数 39部
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	35	3		1	アプリの療育内容と写真から子どもたちのひのび楽しく療育を受けている。実際の広さが分かりづらいため、療育のない時間に動画で施設を紹介することを提案する。	参観日期間を設けてみます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	35			4	従業員数や活動時の職員配置が不明	お知らせ、お便りで定期的に共有します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	34	2		3	玄関スペースが狭い。	マットの有無で子供が分かりやすい靴の着脱スペースを設置しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	39				利用後発語が増え成長速度が目に見えており、施設前を通ると先生と呼んで行きたがる。広々とした空間と個室となっている。	継続します。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	38	1			専門的支援の記載がわかりやすく丁寧。	継続します。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	38	1			紙の時よとアプリになりPDF日程表を見なくなった。	大事なことはお電話やLINEなどツールを増やします。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	39					継続します。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	34			5	家族支援や移行支援の実態が分からない	計画書説明を丁寧に行う。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	39					継続します。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	38	1				新しい遊びや活動をつき半分入れています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	19	1	1	17		地域の公園で交流します。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	39					継続します。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	38			1		更に詳しく時間をかけて説明します。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	7	4	10	研修会はなかったが、日頃の活動はわかりやすく示されている。親向け研修会の実施が望まれ、業務負担軽減のため動画配信を提案する。	希望者がどのくらいいるのか、把握を進めます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	35	4				更に詳しく時間をかけてフィードバックを行います。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	29	5	2	3	定期面談はないが子育て相談に応じた支援が行われている。悩み時に寄り添ってくれる。	次年度は全てのご家庭に個人面談を設定します。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	38			1		ご利用児童さんご家族に寄り添う支援を行います。
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	8	7	17	イベント時に兄弟の参加が可能になると嬉しい。夏祭りで他家族との交流がありご家族への支援はされているが、兄弟支援は不明。	次回から考慮して検討します。	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	33	1	1	5		すぐに相談できるような電話対応を行っています。困り感を徹底して少なくなるように支援します。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	39					継続します。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	37			2		評価表の張り出しを更に口答でもお伝えします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	38			1		強化します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	25	3		11	記載マニュアルの策定状況と発生想定訓練の実施が不明で把握できていない。	保護者へ共有します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	2		22		実践していることを共有します。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	2		7	チャイルドシートの取り付けに不安を感じることもある。	年齢や身長体重に沿って準備する。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	32			7	変わったことがあれば連絡が欲しい。施設利用日以外に訓練が行われている可能性があり、事故なく安全に活動ができている。	情緒面の疑問点あった際に共有頻度を増やします。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	36	2			子どもがハッピーone信の前で毎回ニコニコ指差し、もっとのびのび活動させたい。	見通しを持ち安心して過ごすことができるよう環境を整えていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	34	5				職員全体で、利用者の状況を共有しながら、安心して来所できるよう環境づくりを行っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	36	3			行事が本人に良い経験を提供し楽しんでいる。話を優しく聞いて助かっており	1人1人に合った支援を提供できるよう保護者との情報共有を丁寧に行っています。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所 はっぴーone信		公表日		令和8年 2月 24 日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		パーテーションで個室を作り、少人数に分けて支援をしている。	トイレや洗面台の数が足りていない。	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		職員は十分な配置を行っている。	1人ひとりの特性に応じた配置ができるようにしたい。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	6	つまつきやすい所が多いが、その都度区間を作るなどして配慮をしている。	空間に対してのパーテーションが多い。パーテーションを使わずに空間を作りたい。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日掃除を行い、子どもが口に入れたものは除菌をして衛生面に気を付けている。	収納スペースが少ないため、教材の管理を定期的に見直ししながら整理していく必要がある。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		パーテーションで区切りをつけて個室の空間を作るようにしている。	個室の配置場所や座る位置などを一人一人に合わせて作るようにする。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	外部連携、面談を入れない日を作り、カンファレンスを行う。	学年ごとに担当を決めるなどして利用児の現状を把握しやすくしプログラムへ反映させていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	連絡があったときに、職員全体で話し合いを設け、改善できる範囲で行っている。	なかなか保護者と会える機会も少ないので、送迎時などを利用し事業所側から話しやすいきっかけを作るなどしていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	カンファレンスの際に、意見できる場を作り、よりよい職場環境を作るようにしている。	休みの職員の情報共有が遅れてしまう場合もあるので、申送り書にも記載し確認できるようにしていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		外部の先生(高尾先生)の元、現状の支援方法を見ていただき、改善しながら支援方法を工夫している。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		市で行われている研修に積極的に参加し全体に共有するようにしている。	支援に関しての研修が少ないので、まだまだ研修が必要。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		新月に合わせて作成し、保護者への説明を行っている。	保護者様がどのような支援内容で行っているか具体的に伝わりやすいような説明を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		評価やニーズをすり合わせて目標や課題に対し作成を行っている。	直接会えない保護者様もいらっしゃるので、お会いできる時には本人の様子や保護者様のご意向を丁寧に聞きとれるようにしていきたい。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		作成する前に、カンファレンスを行い、現状・課題についてやり取りを行っている。	支援記録を随時見返しながら継続した支援を行うことができるようにしていく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		新規の方など困り感や目標の共有を図っている。	定期的に計画書内容を職員も確認することで計画に沿った支援が行えるよう意識していきたい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	7	遠城寺発達評価表を用いて半年サイクルで測定中。	定期的に計画書内容や評価を職員も確認することで計画に沿った支援が行えるよう意識していきたい。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		定期的にカンファレンスなどの時間を設け、チーム全体で話し合い、子どもの支援に必要な項目の設定を行っている。	保護者様や相談員と連携を図りながら本児に合った支援を行ってきたい。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		毎月、活動内容の案を出し合いチーム全体で行っている。	活動プログラムの目的設定なども話し合いながら取り組んでいきたい。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		毎月、各週ごとの活動プログラムの変更を行っている。季節に合わせた内容に変更している。	園での活動内容と同じような内容は控えて、児童が楽しく参加できる内容を考えていきたい。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	2	6	それぞれに合った課題を組み合わせるよう連携を図ってきたい。	参加しやすい活動内容にすることで、利用者様が様々な活動に取り組めるように配慮していく。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		主に、リーダー・サブリーダー・カメラ・フリーのメンバーで流れの確認を行っている。	職員間でしっかりと打ち合わせをして、利用児一人一人に目を配りながら支援を行うことができるよう努めていく。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		全体で集まる時間が限られている為、3人程度で行う。	その日共有ができなかった職員も申送り等を用いて共有を図っていく。	

22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		5領域に沿って記録を残し、要因を想定した上で次の支援の改善に努めている。	記録を見返しながら次の支援に繋げていけるよう努める。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		相談員さんからの電話や直接の見学などでモニタリングを行い、記録に残している。	保護者様や相談員と定期的に連携を図りながら本児の現状把握をしていけるよう努めていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		主に、児童発達支援管理責任者と施設責任者が参加し、子どもの状況理解に努めている。	主に、児童発達支援管理責任者と施設責任者が参加しているが、支援者も同席できるようにしていきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		園とは送迎時、または利用にあたって連絡をとり、一方的な連携ではあるが、行っている。	四者面談ができるようになっていけたらと思う。（園・施設・担・保護者）
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	1人ひとりの特性を踏まえて、受け入れながら職員全体で支援の方法を考えている。	園・併用事業所との連携も密に取りながら、保護者様・利用児が安心して通うことができるように情報提供を行っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		移行支援シートを活用し行っている。	移行支援シートだけでは、伝えきれない部分は直接お伝えできる場を設けて、スムーズに移行ができるようにしていく。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			研修等で、意見交換をしながら情報共有し、質の向上を図っている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			外部から講師（高尾先生）を呼び、支援を見ていただき、助言を受け改善に努めている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			現在は参加できていない。	機会があれば積極的に参加したい。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		8	現在はそのような機会は設けていない。	特に今は設けてはいないが、必要に応じて助言等を等を受ける機会を設けていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		8	外出等で、施設や公園に行った際、他の子どもとの交流をしている。	機会があれば、積極的に参加の検討が必要である。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時に保護者様とお話をしたり、HUGやLINEなどのツールを通じて子どもについての共有を行っている。	保護者様がチェックする支援記録も具体的に記載し保護者様に伝わりやすいよう工夫していきたい。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		8	現在、家族支援プログラムの情報共有をしているが、研修の機会は無い。	機会があればご案内したり、情報共有を積極的に行っていきたい。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		見学时や契約時にて、管理者が行っている。	疑問に思うことがあれば、その都度丁寧に説明を行っている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		児童発達支援管理責任者が1年に1回担当者会議、6カ月ごとにモニタリングを相談事業所と行っている。	お会いできる時には本人の様子や保護者様のご意向を丁寧に聞きとれるようにしていきたい。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		児童発達支援管理責任者が半年に1回行なわれる担当者会議等で説明をし、同意を得ている。	お会いできる時には本人の様子や保護者様のご意向を丁寧に聞きとれるようにしていきたい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		年長面談を行ったり、必要なご家庭は面談を組んで、相談等を受け必要な助言を行っている。	年長児をメインで行ってきたので、次年度は全体の利用児童へ広げていきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	3	年に1回以上、事業所開催の催し物をしている。	ご兄弟も参加しやすい、ご家族で楽しめる交流会を作りたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		保護者様から申し入れがあった際は、すぐに返信をし、日程調整を行い、担当者が対応をしている。	状況によっては、電話などで話を聞き、臨機応変に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	2	月に1度、事業所のお便りが配信され、必要な情報や活動内容などの共有を行っている。	電話、送迎時の口答説明、ライン、HUGを使って情報共有を毎日行います。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		鍵付きのロッカーにて保管しており、退勤時に閉め、出勤時（早番）が開けるようにしている。	会社から一歩でも出た際には、利用児さんの名前は伏せるように徹底しています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		担当者会議を半年に1回行っている。 送迎の際に情報伝達を行っている。	園へ行き渋りなく通えているかなど、細かく定期的に確認をしています。どの職員でも内容を素早く申送り書で共有しています。

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8	現在、地域との関わりはもててないので、まずは祖父母の方々などから広げていきたい。	地域のごみ拾い等支援の中で地域を歩いてみる時間を設けます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		定期的に訓練を行っている。	委員会を通して反省点、課題を抽出しています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		年に3回、避難訓練を行っている。	備蓄の賞味期限チェック等確認日も必要でした。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		書類やご家族様から聞き取り把握をしている。	電話やフェイスシートで定期的に変化がないか、確認しています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		食べ物を扱う際には、その都度アレルギーの確認を行い対応している。	電話やフェイスシートで定期的に変化がないか、確認しています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		ヒヤリハットなども活用し、安全管理に努めている。	子ども目線で動線確認が必要です。平均台やマット等大きい物等配置を考える必要があります。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		入口に取り組み内容を提示し、いつでも見ることができるようになっている。	参観日等設けて、施設見学を行っていただく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		職員間で都度話し、全体把握に努めている。	気付いた時に記載しています。曖昧にならないように出し続ける。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止研修などを行い、そのような行為が虐待になるか対応等、周知を行っている。	勘違いされるような行動はとらないように徹底されています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		3か月に1度、研修を行い、契約時に保護者様への説明を行っている。	どういった行動が拘束に繋がるかを話し合っています。現在事例はありません。